

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

矢来町、神楽坂の話

元エヌ・イー ケムキャット 飯田逸夫

シニア懇談会の事務方をなさっておられる出口さんから入会を勧誘され、入会したら今度は世話人代表の室井さんから何か記事を書け、と言われて困った。

何を書くか考えている時、No.37 の齋藤泰和先生の「神楽坂問題集」なる記事を読んで、神楽坂の話題なら自分がその近辺に住んでいるから別の角度から書いてなんとかなりそうだと考えた。

先生の記事はかなり詳しく勉強されたことをもとに歴史を書かれているが、私の方はせいぜい散歩をされる方の参考にでもなればと思う程度である。

1. 矢来町の由来

私が住んでいるのは神楽坂の隣町の矢来町で、この名前は越前小浜の藩主酒井家の「矢来屋敷」による。そしてこの「矢来」は寛永十六年（1639年）江戸城本丸の火災の際、家光将軍がこの屋敷に避難したとき、周りを竹矢来で囲んで警護し、かつこれを記念して以後そのまま、垣も塀も作らず竹矢来にしていたことに由来する。

今の矢来町は早稲田通りから北側にある小さな部分を除いて丁度小浜藩の矢来屋敷全体に対応している。

2. 神楽坂通り

神楽坂通りは、早稲田通りの一部分であって、地下鉄東西線神楽坂駅の神楽坂口を出た付近（神楽坂六丁目）から始まり、大久保通りとぶつかる神楽坂上交差点を通り、外堀通りとぶつかる神楽坂下交差点（神楽坂一丁目）で終わりとなる。神楽坂下で外堀通りを渡ればJRの飯田橋駅である。

3. 牛込天神町交差点から神楽坂通りへ

酒井家の矢来屋敷の北西端に近いところに牛込天神町交差点がある。この交差点を起点として神楽坂一丁目に向かう順序に話をすすめる。

写真はこの交差点から江戸川橋方向を撮ったもので、このまっすぐ北へのびる通りは江戸川橋通りと呼ばれる。

一方、写真の手前に東西に走る道がある。これが早稲田通りである。



牛込天神町交差点から早稲田通りを東（写真では右）に歩いていくと、間もなく右から来た道と出会い丁字路を形成する。

この道が牛込中央通りで、元は小浜藩矢来屋敷の中を通っていた道である。

この丁字路のすぐ傍に「la kagu」という隈研吾さん（くまけんご；オリンピック用の新国立競技場の設計者）設計のキュレーションストアがある。キュレーションストアというのは、エリア分けして異業種小売店が厳選良品を並べるコラボの店らしい。またイベントもやっている。たしかに中にいろいろな店があるが、なにがコラボだかは素人にはよくわからない。

もともとが新潮社の倉庫を改造したものであるから建屋の外観はあまりぱっとしない。しかしアプローチの長い木製の階段とか、内装は一応現代風に工夫されたものになっている。



さらに早稲田通りを神楽坂に向かってすすむと、「AYUMI GALLERY（あゆみギャラリー）」という貸しギャラリーがあり、絵画、写真、工芸品などが入れ替わり展示されている。絵とか写真でよいものもあるのだが、自分で購入したことはない。

このギャラリーの建物は木造で、建築家 高橋博により昭和 28 年に建てられたものである。平成 23 年に登録有形文化財となっている。

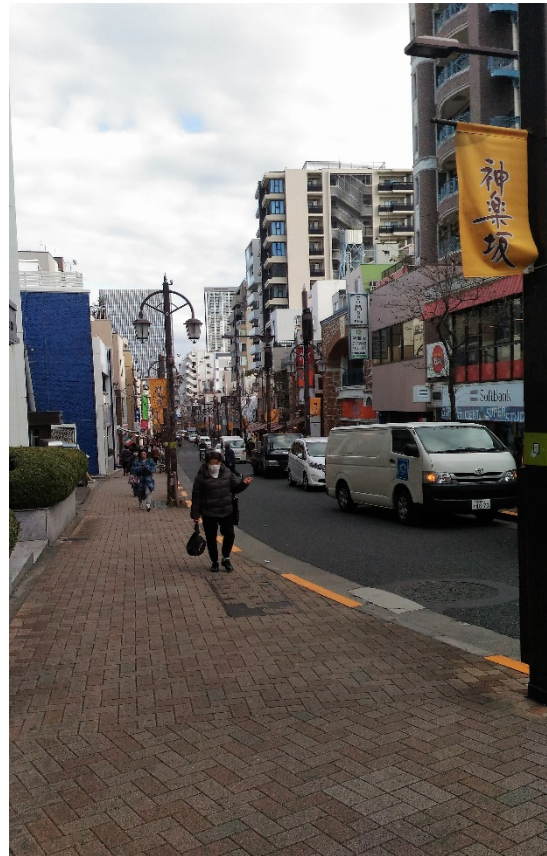


まもなく神楽坂駅の神楽坂口にくる。この出口から出てすぐのところを左にまがると「赤城神社」の鳥居が見える。この「赤城神社」と、そのすぐ脇に建っている「パークコート神楽坂」というマンションがまたしても隈研吾さん設計のものである。「パークコート神楽坂」の一階には「赤城カフェ」があり、結構人が入っているようだ。神楽坂ブームにより参拝者が増え、社殿も近代化し、マンションで安定収入を得て経済基盤はよいのだろうが、鬱蒼と生えていたご神木を何本も切り倒し、そこにあった大山巖元帥の昭忠碑(大きな石碑)も片づけてしまって寂しい限りである。



4. 神楽坂六丁目

いよいよ神楽坂通りに入る。この坂を下って行って神楽坂上の交差点までが神楽坂六丁目である。



坂を少し下ると道の右側にコボちゃんの銅像がある。冬なので毛糸の帽子とカーディガンを着せてもらっている。この漫画の作者の植田まさしさんは神楽坂の人だ。



このコボちゃんの向かい側には「神楽坂梅花亭」がある。テレビなどにも取り上げられている。今は本店は神楽坂にあるが、もとは亀戸でそれから池袋などを経て移ってきた店とのことで、神楽坂ではそう古い店ではない。この神楽坂梅花亭はすぐ奥で菓子を作っているところがみられ、神楽坂見物の女性のお土産用には人気の店だ。



梅花亭を過ぎるとまもなく大久保通りとぶつかる神楽坂上交差点にいたる。

5. 神楽坂五丁目から一丁目まで

神楽坂上交差点を過ぎると右手に昭和21年創業の「五十鈴」という菓子屋がある。子供の頃食べたうぐいす餅だの桜餅が懐かしい。昔は甘味喫茶と併設されていたが、三十年近く前に喫茶店は閉鎖され、和菓子販売のみとなっている。



五十鈴の並びに「善国寺」という日蓮宗のお寺がある。子供の頃から毘沙門様と呼び慣わしていたお寺である。

漱石の「坊ちゃん」のなかで釣りに誘われた坊ちゃんが、「神楽坂の毘沙門の縁日で八寸許りの鯉を針でひっかけて…」と言っているが、これはこの縁日での話である。

今から10年ほど前、嵐の二宮和也が出ていた「拝啓、父上様」というドラマがあったが、このドラマで神楽坂界隈がロケ地として沢山使われた。その為、この毘沙門様が嵐の聖地と呼ばれるようになり、女の子でござったがえし、絵馬がいっぱいになったようである。



「善国寺」の道を隔てた向かい側に、レディースファッションの店「AWAYA」と「神楽坂ワケン酒場」の間にやっと人が入れる道がある。写真で分かるように極端に狭い。

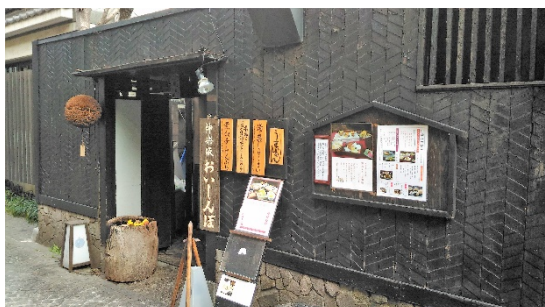


こんな狭い隙間を入れて行ってなにがあるかといえば、いろいろな店がある。これはそ

の中の一つで「和可菜」という旅館である。山田洋次監督が立て籠もって“寅さん”の脚本を口述筆記させたり、野坂昭如さんが執筆していたりした旅館だ。



さらにそのすぐとなりに黒板塀の「おいしんぼ」という料理屋があり、ここでは創作和食のフルコースが食べられる。



ここは部屋に音楽が流れているが、この店らしからぬロック調だったのでびっくりした。

この細い道に戻って神楽坂通りに再び出る。この写真の左側は「毘沙門せんべい福屋」という店であるが、上の方の階に「山さき」という江戸料理屋がある。ミシュランの一つ星である。ここはコース料理もなかなかよいが、代表はむしろねぎま鍋か。鮪と野菜（深谷ネギ他）を使う。ありがたいことに、調理と取り分けはすべてお店の人がやってくれた。折角の美味しい鍋が下手な調理で台無しになるのを恐れているのかも知れな

い。



「毘沙門せんべい福屋」の道を隔てた隣の赤っぽく見える建物は「鳥茶屋」という、うどんすき、うどん会席の店である。ここも「拜啓、父上様」のお蔭で有名になったようである。基本関西料理であるが、ここはうどんすきが一番よい。昔子供の七五三で使った頃にはクレジットカードが使えないので不便だった。今はもちろんカードが使える。

「鳥茶屋」と「毘沙門せんべい」の間に細い道があるが、その奥にル・ブルターニュというガレット（そば粉のクレープ）を出す店がある。ナチュラルチーズ、生ハム、玉子が中身にあって、おいしい店である。



「鳥茶屋」からさらに飯田橋方向へ少しいくと左に入る本多横丁と呼ばれる道がある。横丁入ってすぐのところに「たつみや」というなぎ屋があるが、ここはジョン レノンとオノヨーコが好んだという店である。



外見から想像されるように、内装も豪華なものでは決してない。でもなぎはおいしい。

「たつみや」の並びに「ルグドゥノム ブジョン リヨネ」という日本人には覚えにくい

名前のフレンチレストランがある。リヨネというからリヨン料理だ。ブジョンは bouchon だから居酒屋の看板の樹枝の意味。ミシュラン一つ星であるがまだ行ったことがないので今度行こうと思う。



本多横丁から神楽坂通りへもどり、急坂を下る途中に助六という老舗がある。草履、下駄、傘、その他和装小物を扱っている店で、テレビでも紹介される。時代の所為か洋風のサンダルなどがおいてあったりするのがちょっと残念。



坂をさらに下っていくと「紀の善」というあんみつ屋がある。家族を連れては入ったことがある。このあたりはもう理科大も近い場所で、理科大の女子大生などは来ていることだろう。

そして「紀の善」の先に「不二家」がある。ここの不二家は日本でただ一軒ペコちゃん焼きを出してくれることで知られている。

この不二家の場所は早稲田通りと外堀通りが交差する神楽坂下のすぐ傍である。ここで神楽坂通りはおわる。

ここらあたりは神楽坂一丁目で、むしろこちらを神楽坂の起点というべきなのだろう。



